

新規漁業就業者確保・育成対策に関する  
提言について

令和6年1月26日

千葉県新規漁業就業者確保・育成対策検討会議

# 目次

1	検討会議等について	
(1)	検討会議及び実務者会議の目的	1
(2)	検討会議及び実務者会議の構成	1
(3)	検討スケジュール	3
2	漁業の担い手の現状について	
(1)	漁業就業者数の推移	4
(2)	漁業就業者数の見通し	5
(3)	漁業従事者数の推移	6
(4)	漁業従事者の平均年齢の推移	6
(5)	新規漁業就業者数の推移	7
(6)	新規漁業就業者数の漁業種類別の推移	8
(7)	新規漁業就業者数の目標	9
(8)	新規漁業就業者の初期の課題	10
(9)	新規漁業就業者数の離職理由	11
3	新規漁業就業者の確保・育成対策の現状・課題について	
(1)	新規漁業就業者の確保・育成対策の事業体系	12
(2)	漁業技術研修の体系	13
(3)	新規漁業就業者の確保・育成対策の事業内容と直近5年の実績	14
(4)	新規漁業就業者の確保・育成対策の課題（問題点）	15
4	水産系高校の現状について	
(1)	水産系高校の配置状況	16
(2)	水産系高校の生徒在籍状況	16
(3)	水産系高校の生徒募集状況	17
(4)	各高校のカリキュラム	17
(5)	水産系高校卒業後の進路状況	19
(6)	本県の水産教育の課題	19
5	検討会議での主な意見・提言	
	【新たな対策に関する主な意見・提言】	
(1)	小型船漁業の就業者対策の強化	20
(2)	大型船漁業の就業者対策の強化	21
	【これまでの対策に関する主な意見・提言】	
(1)	漁業のPR／就業相談	22
(2)	漁業体験	22
(3)	漁業技術研修	22
(4)	就業・定着	23
	【水産系高校に関する主な意見・提言】	24

# 1 検討会議等について

## (1) 検討会議及び実務者会議の目的

三方を海に囲まれた本県の沿岸地域において、漁業は水産物の供給に加え、水産加工業や観光業などと密接に関係する基幹産業であるため、生産規模を維持することが重要である。

一方、本県の漁業就業者は減少傾向にあり、65歳以上の高齢者が多い就業構造となっている。また、近年では燃油の高騰や海洋環境の変化など、漁業を取り巻く環境に変化が生じ、漁業就業者の更なる減少が懸念されており、漁業の生産規模を維持していくため、新規漁業就業者の確保・育成対策の強化が必要となっている。

このことから、千葉県における新規漁業就業者の確保・育成対策について、大学等の専門家や漁業者の代表などから直接意見を聞き、今後の施策に反映させるため、検討会議を設置した。

また、検討会議での協議を円滑に進めるため、市及び漁協の担い手対策の担当者で構成する実務者会議を併せて設置した。

## (2) 検討会議及び実務者会議の構成

### ①千葉県新規漁業就業者確保・育成対策検討会議【全8名】

学識経験者2名・漁業者等代表5名・県職員1名

### ②千葉県新規漁業就業者確保・育成対策実務者会議【全8名】

担い手対策に積極的な漁協等の職員4名・市職員3名・県職員1名

①千葉県新規漁業就業者確保・育成対策検討会議構成員

区分	氏名	所属・役職名
学識経験者	関 いずみ	東海大学人文学部 教授
	馬上 敦子	(一社) 全国漁業就業者確保育成センター 事務局長
漁業代表者	鶴岡 裕生	千葉県地域漁業担い手確保・育成支援協議会 会長
	佐久間 國治	【内湾】 富津漁業協同組合 代表理事組合長
	鈴木 直一	【内房】 岩井富浦漁業協同組合 代表理事組合長
	石井 春人	【外房】 勝浦漁業協同組合 代表理事組合長
	和田 一夫	【銚子・九十九里】 銚子市漁業協同組合 副組合長
県職員	石黒 宏昭	水産課長

②千葉県新規漁業就業者確保・育成対策実務者会議構成員

区分	氏名	所属・役職名
漁協職員等	斉藤 伸啓	千葉県漁業協同組合連合会 指導部長
	森 泰一	【内湾】 船橋市漁協 指導担当
	鈴木 仁志	【内房】 東安房漁協 参事
	渡辺 浩則	【外房】 新勝浦市漁協 参事
市職員	永田 祥明	南房総市水産担当職員
	鈴木 秀彦	勝浦市水産担当職員
	平野 寛	銚子市水産担当職員
県職員	信太 雅博	水産課企画指導室長

### (3) 検討スケジュール

#### 第1回検討会議・実務者会議

##### ①日 時

ア) 検討会議 令和5年10月19日(木) 14時から

イ) 実務者会議 令和5年 9月12日(火) 14時から

##### ②議 題

ア) 漁業の担い手の現状

イ) 新規漁業就業者の確保・育成対策の現状・課題

#### 第2回検討会議・実務者会議

##### ①日 時

ア) 検討会議 令和5年11月28日(火) 14時30分から

イ) 実務者会議 令和5年11月10日(金) 14時から

##### ②議 題

ア) 新規漁業就業者の確保・育成対策に関する今後の方向性の検討

イ) 水産系高校の現状

#### 第3回検討会議

##### ①日 時

検討会議 令和6年1月26日(金) 14時から

##### ②議 題

ア) 新規漁業就業者の確保・育成対策に関する提言取りまとめ

## 2 漁業の担い手の現状について

### (1) 漁業就業者<sup>※</sup>数の推移（漁業センサス）

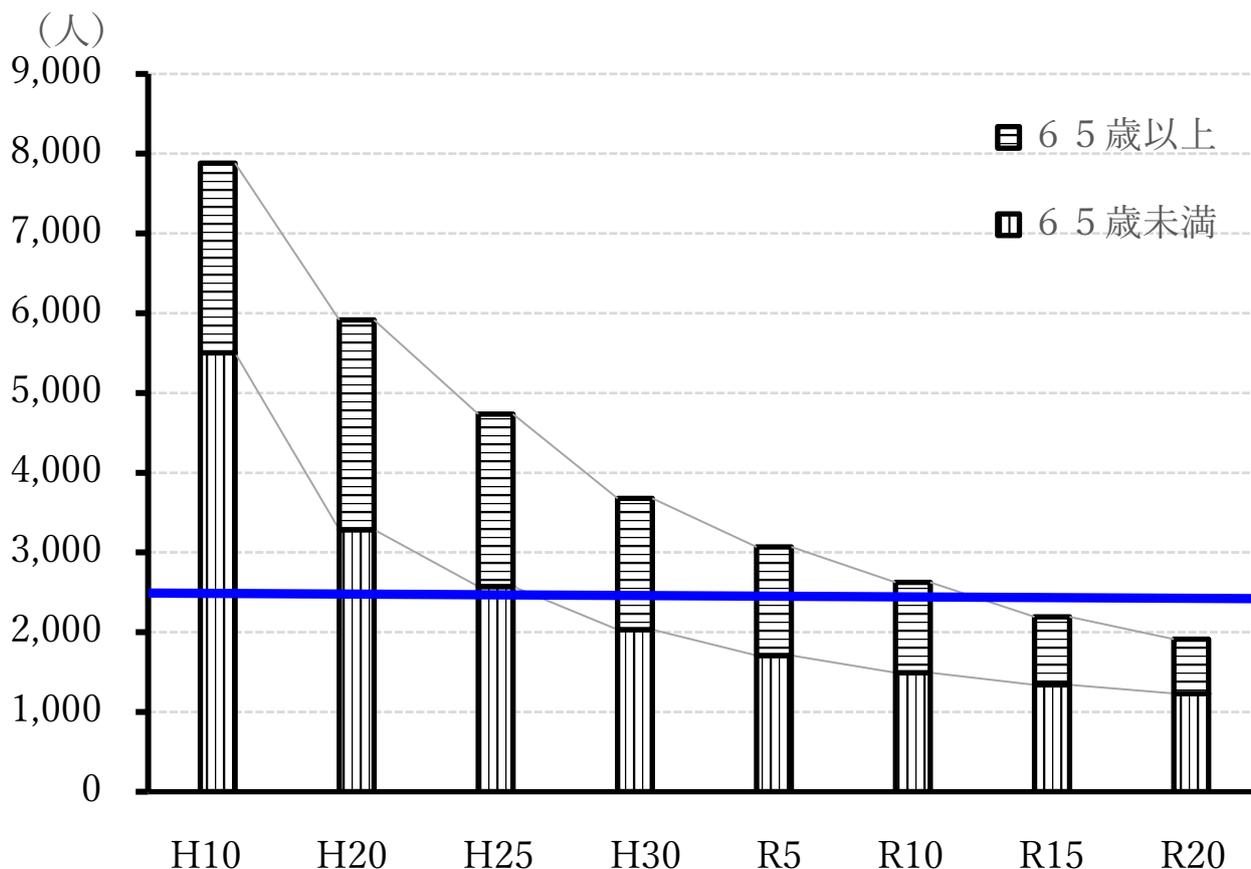
		H10	H20	H30	H20-H10	H20/H10	H30-H20	H30/H20
合 計		7,882 人	5,916 人	3,678 人	▲ 1,966 人	75.1%	▲ 2,238 人	62.2%
性別	男 性	6,524 人 (82.8%)	5,024 人 (84.9%)	3,378 人 (91.8%)	▲ 1,500 人	77.0%	▲ 1,646 人	67.2%
	女 性	1,358 人 (17.2%)	892 人 (15.1%)	300 人 (8.2%)	▲ 466 人	65.7%	▲ 592 人	33.6%
年齢別	45 歳未満	1,163 人 (14.8%)	966 人 (16.3%)	872 人 (23.7%)	▲ 197 人	83.1%	▲ 94 人	90.3%
	45 歳以上 65 歳未満	4,340 人 (55.1%)	2,320 人 (39.2%)	1,161 人 (31.6%)	▲ 2,020 人	53.5%	▲ 1,159 人	50.0%
	65 歳以上	2,379 人 (30.2%)	2,630 人 (44.5%)	1,645 人 (44.7%)	251 人	110.6%	▲ 985 人	62.5%

※漁業就業者：満 15 歳以上で過去 1 年間に漁業の海上作業に年間 30 日以上従事した者（漁業センサス）

#### 【現況】

- 1 漁業就業者は減少傾向が続いており、計算では毎年約 200 人減少している。
- 2 性別では、男性に比べ、女性の減少率が高く、平成 10 年～30 年の 20 年間で女性は約 8 割、男性は約 5 割減少している。
- 3 65 歳以上の割合は約 45% と高止まっている。

## (2) 漁業就業者数の見通し(水産庁予測計算を参考に計算)



### 【見通し】

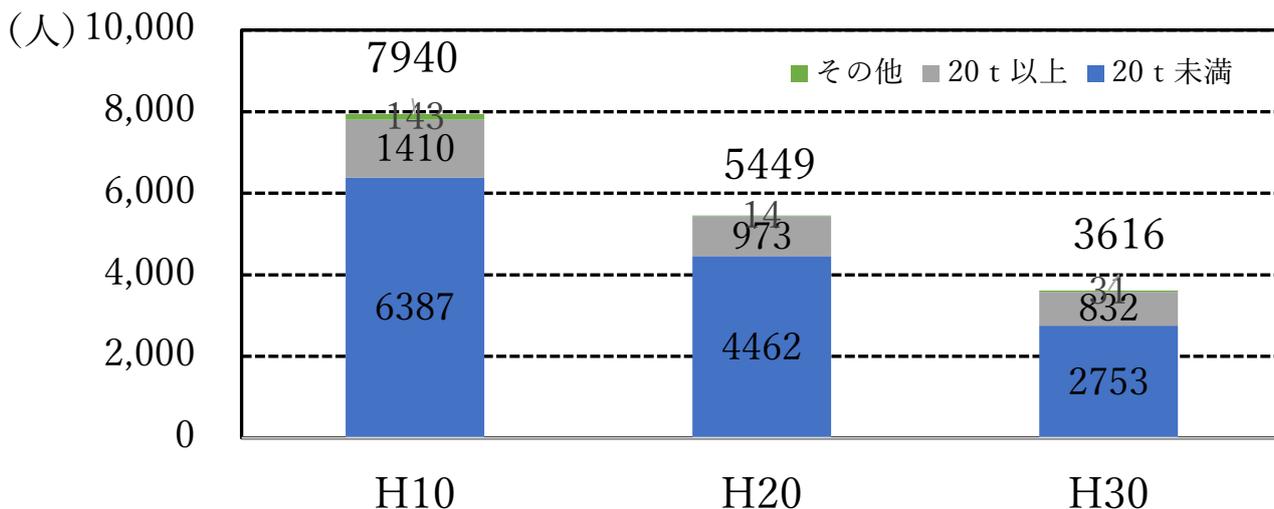
水産庁の予測計算の減少率を参考に計算すると、

- 1 千葉県の子来の漁業就業者は、10年後に2,500人を下回る。
- 2 65歳以上の割合は、令和10年までの40%台から令和15年以降は30%台に減少する。

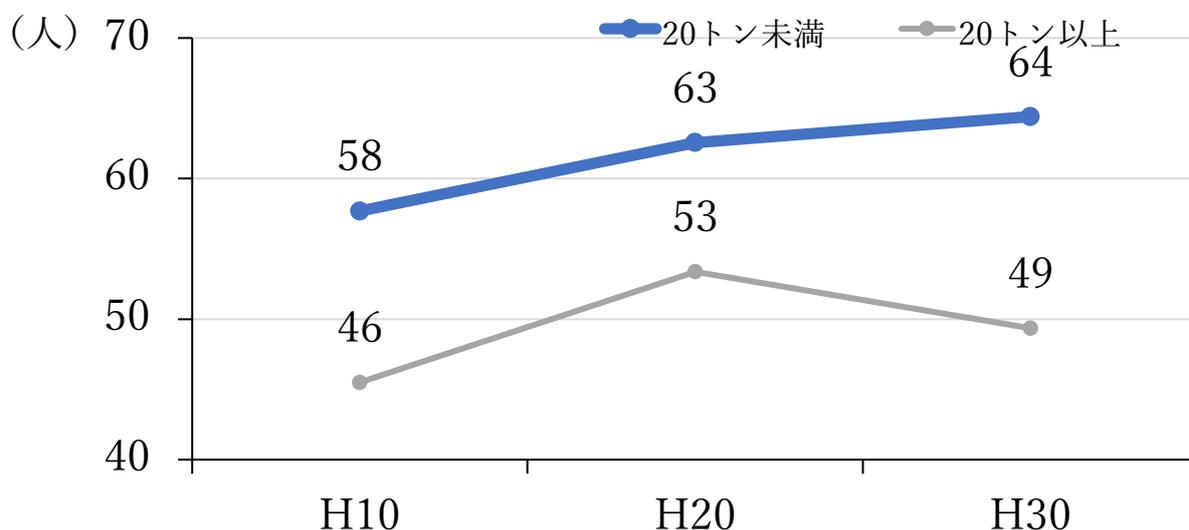
### 【水産庁の予測計算の考え】

- 1 労働力人口の減少に伴う新規就業者の減少を考慮。
- 2 漁業センサス平成25年に対する平成30年の年齢階層ごとの変化率を使い、新規就業者を除いた5年ごとの漁業就業者を予測。
- 3 さらに新規就業者が労働力人口の減少に伴って減少していくと仮定して、予測した就業者数に加算して算出。

### (3) 漁業従事者\*数の推移



### (4) 漁業従事者の平均年齢の推移



\*漁業従事者：満15歳以上で、11月1日現在で海上作業に従事した者（漁業センサス）

### 【現況】

1 平成30年の漁業従事者は、20トン未満漁船の割合が全体の76%を占めている。

また、平成10年からの漁業従事者の減少割合は、20トン未満が約57%であり、20トン以上の約41%と比べ高くなっている。

2 平成30年の漁業従事者の平均年齢は、20トン未満が64歳であり、20トン以上の49歳と比べ高くなっている。

## (5) 新規漁業就業者数の推移

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	H25～29 平均	H30～R4 平均
<b>新規漁業就業者数</b>		<b>63</b>	<b>52</b>	<b>56</b>	<b>56</b>	<b>41</b>	<b>36</b>	<b>28</b>	<b>30</b>	<b>43</b>	<b>25</b>	<b>54</b>	<b>32</b>
年齢別	～19歳	8	12	8	17	12	11	9	8	18	4	11	10
	20～29歳	22	16	18	13	6	10	11	11	9	13	15	11
	30～39歳	19	15	19	12	13	6	2	5	9	6	16	6
	40～49歳	10	5	8	7	4	7	3	3	2	2	7	3
	50～59歳	2	3	1	4	4	1	3	1	1	0	3	1
	60歳～	2	1	2	3	2	1	0	2	4	0	2	1
漁家子弟 (割合)		11	7	12	14	7	4	2	6	10	6	10.2 (19.0%)	5.6 (17.3%)
非漁家出身 (割合)		52	45	44	42	34	32	26	24	33	19	43.4 (81.0%)	26.8 (82.7%)
まき網・定置網 新規漁業就業者数		46	34	41	41	29	25	17	15	25	15	38.2 (70.7%)	19.4 (60.6%)
1年後定着率 (割合)		84%	77%	81%	72%	78%	83%	68%	63%	65%	—	(78.4%)	(69.8%)

### 【現況】

- 直近10年の新規漁業就業者数は25～63人である。
- 新規漁業就業者の平均人数は平成25年～29年の54人から平成30年～令和4年の32人に減少している。
- 新規漁業就業者のうち漁家子弟の割合は約20%、非漁家出身は約80%である。
- 新規漁業就業者のうちまき網・定置網漁業への就業者が約60～70%を占める。
- 1年後の定着率は63～84%で、平成30年～令和4年の平均は約70%となっている。

## (6) 新規漁業就業者数の漁業種類別の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	H25~29 平均	H30~R4 平均
新規漁業就業者数	63	52	56	56	41	36	28	30	43	25	54	32
まき網 (20t 以上)	4	2	2	4	1	0	0	1	5	4	2.6	2.0
<b>まき網 (20t 未満)</b>	<b>30</b>	<b>21</b>	<b>29</b>	<b>23</b>	<b>16</b>	<b>14</b>	<b>10</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>7</b>	<b>23.8</b>	<b>8.8</b>
サンマ	4	5	1	1	1	0	0	2	9	0	2.4	2.2
<b>定置網</b>	<b>12</b>	<b>11</b>	<b>10</b>	<b>14</b>	<b>12</b>	<b>11</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>13</b>	<b>4</b>	<b>11.8</b>	<b>8.6</b>
沖底 (20t 以上)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0.0
沖底 (20t 未満)	0	1	1	1	0	0	0	2	1	1	0.4	1.0
はえ縄 (20t 以上)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.0	2.2
はえ縄 (20t 未満)	0	1	0	0	0	3	1	1	0	0	1.4	1.6
<b>釣り</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>1.0</b>	<b>0.2</b>
刺網	2	1	2	1	1	1	2	2	1	2	0.6	1.2
小底	2	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0.2	0.0
小底 (板びき)	0	1	1	1	0	1	2	2	0	1	0.6	0.8
<b>採介藻</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>4.0</b>	<b>3.0</b>
ノリ養殖	2	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1.0	0.2
養殖	0	2	0	0	1	1	1	1	0	0	0.6	0.6

### 【現況】

- 漁業種類別の新規漁業就業者は、まき網 (20t 未満) が最も多く、次に定置網となっている。
  - ☞直近10年では、まき網 (20t 未満) は30~6人、定置網は14~4人。
  - ☞新規漁業就業者の平均人数が22人減少しているうち、19人の減少がこれら漁業によるもの。
- 小型漁船漁業の新規漁業就業者は、そもそも年数人程度と少ない。釣りで最大5人、採介藻で最大6人となっている。

## (7) 新規漁業就業者数の目標

### 【試算】

県内漁業・養殖業の一定の生産額（250億円）の維持に必要な  
新規漁業就業者数の確保を目指す

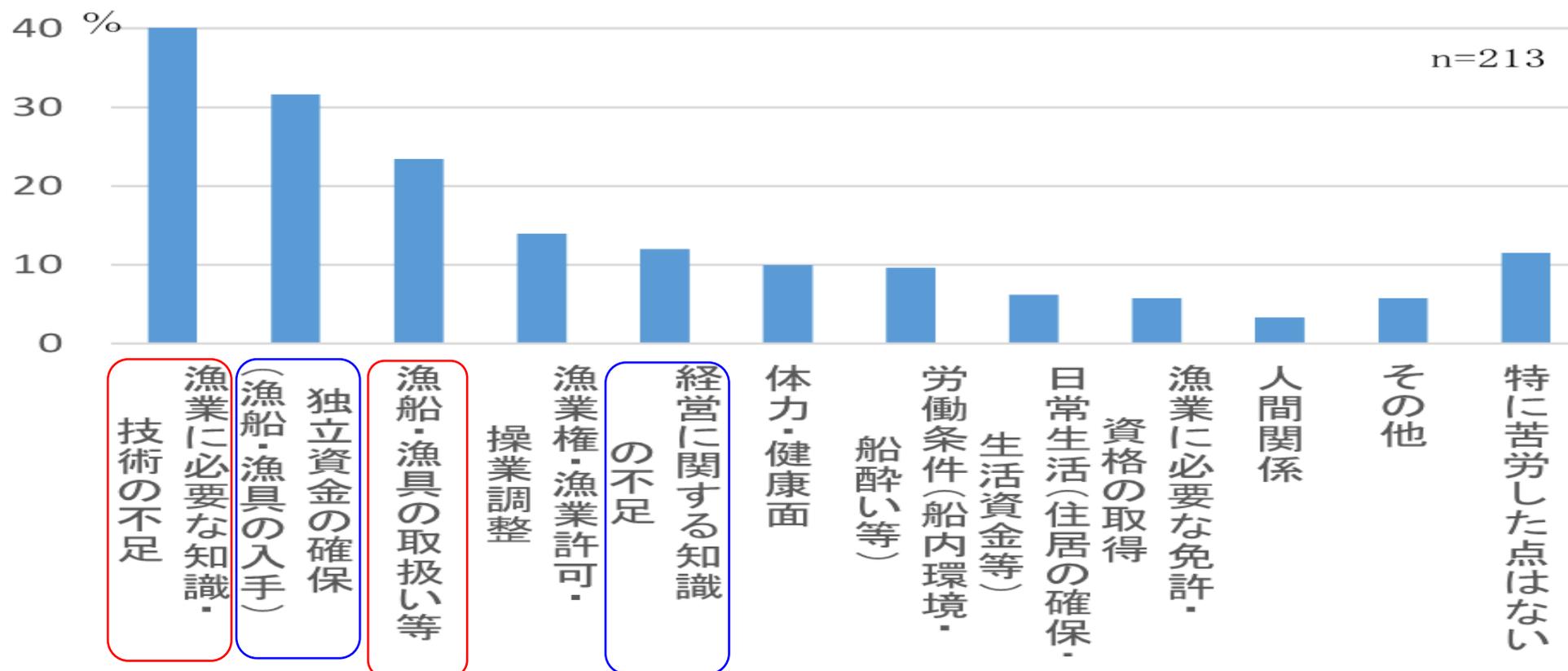
- 1)  $250\text{億円} \div 1,000\text{万円/人} = 2,500\text{人}$ 
  - ・ 県内漁業・養殖業の直近5年の平均生産額  $\rightarrow$  246億円
  - ・ 漁業者1人当たりの漁業収入目標額 1,000万円
  
- 2)  $2,500\text{人} \div 50\text{年} = 50\text{人}$ 
  - ・ 漁業者の就業日数50年（70歳前後までの就業を想定）

毎年約50人の新規漁業就業者の確保が必要

### 【現況】

目標の50人に対して、平成30年～令和4年の新規漁業就業者の平均人数は32人で18人少ない状況である。

(8) 新規漁業就業者の初期の課題 (水産庁調査：複数回答)



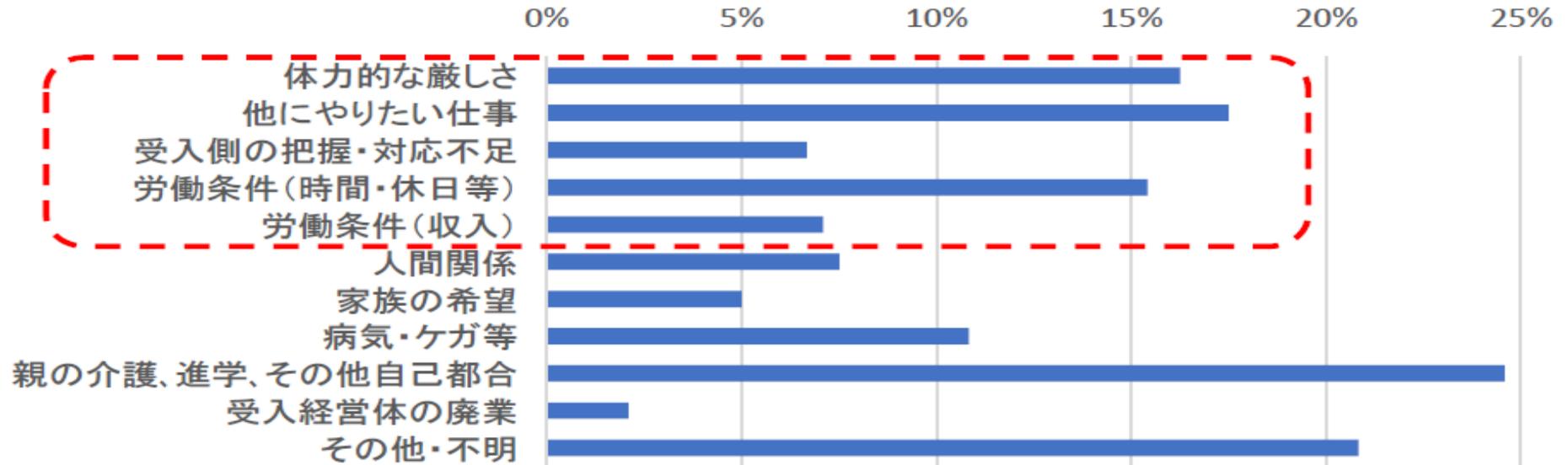
資料：水産庁「平成29年度新規漁業就業者経営状況等調査」

【現況】

- 1 就業初期は、漁業に必要な知識・技術の不足、漁船・漁具の取扱いなどが課題
  - 2 独立に向けては、漁船、漁具の入手資金の確保、経営に関する知識の不足が課題
- ☞ 漁家子弟以外の就業が多いこと(約8割)から漁業経営ゼロからでも就業できるよう段階に応じた支援が必要

## (9) 新規漁業就業者の離職理由

### ①水産庁調べ



資料：水産庁調べ（H26～30他産業へ転職した雇用型長期研修受講者の離職理由）

### ②県調べ：漁協等聞き取り調べ

- |                             |                  |
|-----------------------------|------------------|
| 1 体力的な厳しさ（まき網、定置、サンマ、小型船）   | 5 船酔い（まき網等）      |
| 2 労働条件（時間・休日等）（まき網、定置、サンマ）  | 6 家庭の事業（まき網）     |
| 3 陸上労働と違う労働環境の違いによるストレス（定置） | 7 不明（まき網、定置、小型船） |
| 4 人間関係（まき網、定置、小型船）          |                  |

### 【現況】

- 1 水産庁が調べた離職理由では、体力的な厳しさのほか、休日等の労働条件を挙げる例が多い。
- 2 千葉県でも同様の離職理由が挙げられている。

### 3 新規漁業就業者の確保・育成対策の現状・課題について

#### (1) 新規漁業就業者の確保・育成対策の事業体系

##### 【漁業のPR／就業相談】

###### ☞千葉の漁業を知る

- ①就業支援パンフレットの配布
- ②電話相談（随時）
- ③就業相談会（県単独）
- ④全国漁業就業フェア

##### 【漁業体験】

###### ☞ギャップを埋める

- ①水産教室
  - ☞小・中・高校生が対象
- ②インターンシップ(5日)
  - ☞高校生が対象
- ③短期漁業技術研修(5日)
  - ☞社会人等が対象

##### 【漁業技術研修】

###### ☞適性を知る

###### ☞実践技術を学ぶ

- ①中期漁業技術研修(3か月)
  - ☞社会人等が対象
- ②長期漁業技術研修(1年)
  - ☞社会人等が対象

##### 【就業・定着支援】

###### ☞将来を見据える

- ①フォローアップ研修
- ②漁船リース事業

#### 【近年の新たな取組：就業モデルづくり】

漁協や漁業者グループと市町が連携して行う地域の漁業等の実状にあった新規漁業就業者の確保のための新たなモデルづくりを支援。

##### ①磯根漁業就業モデル（R4～）

☞就業希望者は、漁協職員として働きながら、荷捌き、アワビの輪採漁場の管理等の業務を通じて地域の漁業を知り、馴染むとともに、潜水研修等を受講し磯根漁業への就業を目指す。

##### ②ノリ養殖業就業モデル（R5～）

☞就業希望者は、漁業者グループからノリの生産から加工までの全工程を働きながら学び、ノリ養殖業への就業を目指す。

【①・②は国の地域おこし協力隊制度を活用：就業希望者は最長3年間の生活費や活動費480万円/年の給付を受けられる】

##### ③小型船団モデル（R5～）

☞就業希望者は、複数の漁船に乗り込み、漁業技術を学びながら丁寧なマッチングを行い、小型漁船への就業を目指す。

【③は、県の2か月の研修を経た後、国の長期研修を活用：長期研修では指導する漁業者から報酬を得る】

## (2) 漁業技術研修の体系



### 【短期漁業技術研修の事業概要】

- 1 就業を希望する既卒者を対象として短期（5日間以内）の研修を行う。
- 2 講師となる漁業者に対して謝金と用船料を支給（1日当たり各1万円）・保険料  
※短期は過去の研修、就業に関係無く実施可能

### 【中期漁業技術研修の事業概要】

- 1 漁業技術習得と漁業への適正を判断するため、中期（3か月間）の研修を漁連に委託して行う。
- 2 講師となる漁業者に対して謝金と用船料等を支給：月15.8万円（研修生は講師の漁業者と雇用契約を締結して研修を実施）
- 3 研修者の要件
  - ①累積1年以上、漁業に従事したことがない者
  - ②国又は地方公共団体の研修事業又は漁業就業に係る給付金等を現在又は過去に1か月以上受けたことのない者
  - ③研修先との関係が3親等以内でない者

### 【長期漁業技術研修の事業概要】

- 1 就業希望者がゼロからでも円滑に漁業に就業できるよう、漁業現場での長期研修を行う。  
なお、研修後に目指す就業形態により雇用型と独立型の2タイプがあり、独立型であれば最長3年間研修を受けることができる。
- 2 講師となる漁業者に対して謝金を支給：研修期間の1/2までは月9.4万円、それ以降は月14.1万円  
（研修生は講師の漁業者と雇用契約を締結して研修を実施）
- 3 研修者の要件
  - ①累積1年間以上、漁業に従事したことがない者
  - ②国又は地方公共団体の研修事業又は漁業就業に係る給付金等を現在又は過去に1か月以上受けたことのない者
  - ③研修先との関係が3親等以内でない者

### (3) 新規漁業就業者の確保・育成対策の事業内容と直近5年の実績

#### 【漁業のPR／就業相談】

- ①就業支援パンフレット配布
  - ☞千葉県漁業や就業支援の内容を整理・紹介するパンフレットを作成し、フェア等で配布
- ②電話相談（随時）
  - ☞年間数件～数十件の問い合わせに対応
    - ・漁業技術研修等の対応
    - ・千葉県担い手協議会（県漁連）を通じた求人情報の紹介
- ③就業相談会（県単独）
  - ☞千葉市、館山市、銚子市で開催
  - ☞2～4人／年
- ④全国漁業就業フェア
  - ☞20～55人／回

#### 【漁業体験】

- ①水産教室
  - ☞44～220人
  - ☞漁業士が講師となり、漁業の説明や体験を実施
    - ・漁業操業等の説明
    - ・イセエビの網外しやノリスき体験ほか
  - （県の役割）
    - ☞企画・講師謝金
- ②インターンシップ
  - ☞7～21人
  - 漁業士等の下で実操業を体験
    - ・まき網、定置網、刺し網、はえ縄、ひき縄、小型底びき網、魚類養殖
- ③短期漁業技術研修
  - ☞2～4人
  - 漁業士等の下で実操業を体験
    - ・まき網、定置網、刺し網、はえ縄、釣り
  - （②・③の県の役割）
    - ☞企画・募集
    - 講師謝金
    - 傷害・賠償保険
    - 用船料

#### 【漁業技術研修】

- 研修生は指導漁業者と雇用契約を結び、実操業の中で漁業技術等を学ぶ。
- ①中期漁業技術研修
    - ☞1～3人
    - ・まき網、定置網、魚類養殖
    - （県の役割）
      - ☞募集・マッチング
      - ☞指導漁業者への委託
      - 講師謝金・用船料
      - 労災・賠償保険
      - 雑費（カッパや長靴等）
  - ②長期漁業技術研修（国費）
    - ☞1～6人
    - ・まき網、定置網、はえ縄
    - （県の役割：県漁連と連携）
      - ☞募集・マッチング
      - ☞指導漁業者への委託
      - 講師謝金（用船料含む）
      - 労災保険
      - 雑費（カッパや長靴等）

#### 【就業・定着支援】

- ①フォローアップ研修
  - ☞4～11人
  - ☞漁業士等から漁業技術・経営に関して学ぶ
  - （県の役割）
    - ☞企画・講師謝金
- ②漁船リース事業（国費）
  - ☞12～26隻
  - ☞独立等に必要な漁船の確保を支援
  - （千葉県漁船リース事業協会〔県漁連〕を通じた支援）
  - （県の役割）
    - ☞漁業者への経営等の指導

#### (4) 新規漁業就業者の確保・育成対策の課題（問題点）

##### 【漁業のPR／就業相談】

- ①就業相談会の来場者数の低迷
  - ・労働人口の減少
  - ・沿岸部に若者が少ない
- ②就業フェアでは他県・求人者との競争が激化
  - ・Iターンの争奪戦
- ③就業フェアから漁業体験や漁業技術研修等につながらない
  - ・研修等の時期が合わない
  - ・希望の漁業で研修できない

##### 【漁業体験】

- ①インターンシップは夏休みの実施が大部分のため受入人数が頭打ち
- ②漁業体験は原則1人1回としていため、複数の漁業を体験できない。
- ③Iターンにとって漁業体験の宿代等の負担が大きい
- ④漁業体験から漁業技術研修につながらない

##### 【漁業技術研修】

- ①研修中の生活が不安
  - ・収入が足りない
  - ・転居費や家賃に困る
- ②体験を経ずに研修を実施した場合、途中で辞めてしまう場合がある
- ③受入漁業者に馴染めずに辞めるケースがある
- ④漁業に必要な免許・資格取得に必要なサポートがない
  - ・独立のイメージが持てない

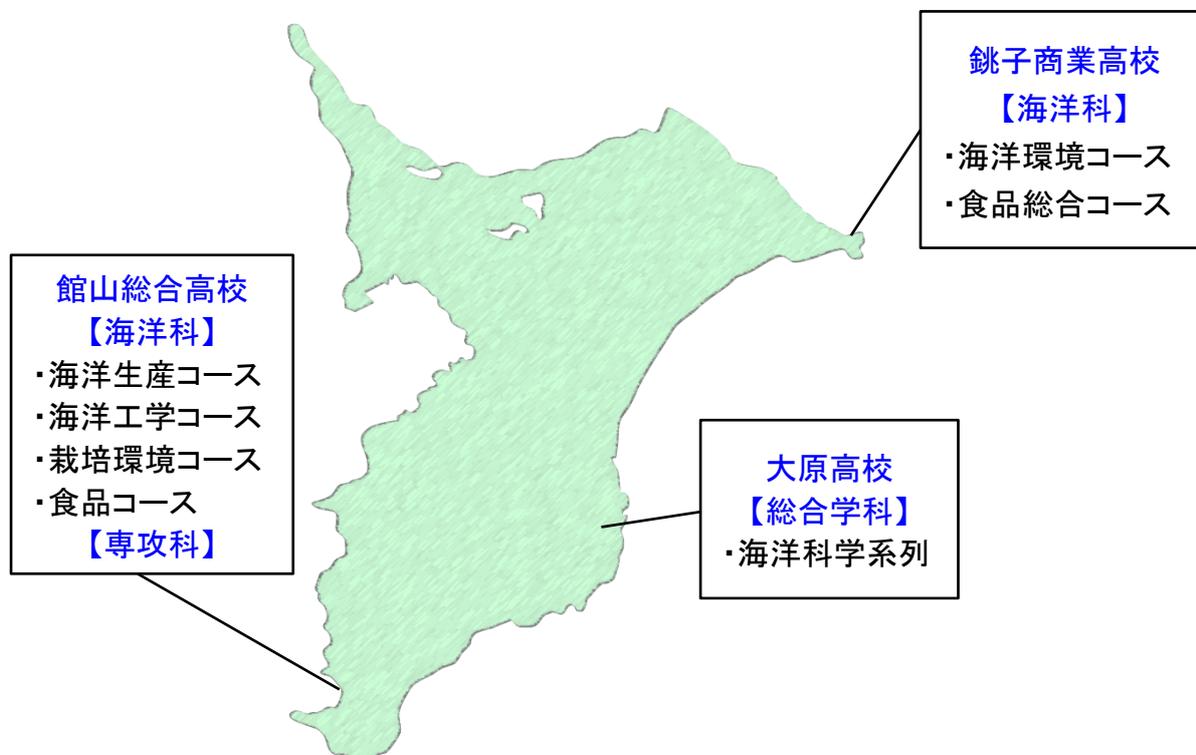
##### 【就業・定着支援】

- ①定着率が約70%（低い）
- ②就業直後の生活が不安
  - ・収入が足りない
  - ・転居費や家賃に困る
- ③独立に必要な漁船・漁具が確保できない
  - ・資金不足 ほか
- ④労働環境が悪い

- ・日本人就業者の減少に伴う外国人材（技能実習生及び特定技能外国人）の受入増加
- ・担い手対策を担当する漁協職員のマンパワー不足
- ・国の地域おこし協力隊制度を活用したモデルづくりは、当該事業を活用できる地域等が限られている

## 4 水産系高校の現状について

### (1) 水産系高校の配置状況



### (2) 水産系高校の生徒在籍状況【令和5年5月1日現在】

	1年	2年	3年	合計
銚子商業高校海洋科（定員40名）	<b>10</b>	<b>21</b>	<b>25</b>	<b>56</b>
海洋環境コース	-	12	12	24
食品総合コース	-	9	13	22
大原高校総合学科（定員160名）	111	73	97	281
海洋科学系列	-	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>31</b>
館山総合高校海洋科（定員40名）	<b>7</b>	<b>17</b>	<b>12</b>	<b>36</b>
海洋生産コース	-	5	5	10
海洋工学コース	-	2	3	5
栽培環境コース	-	4	2	6
食品コース	-	6	2	8
水産系3校合計	<b>17</b>	<b>53</b>	<b>53</b>	<b>123</b>

### (3) 水産系高校の生徒募集状況（過去3年間）

		R3入試	R4入試	R5入試
銚子商業高校 (海洋科)	定員	40	40	40
	志願者数	30	25	11
	倍率	0.75	0.63	0.28
大原高校 (総合学科)	定員	160	160	160
	志願者数	106	76	110
	倍率	0.66	0.48	0.69
館山総合高校 (海洋科)	定員	40	40	40
	志願者数	19	17	10
	倍率	0.48	0.43	0.25

#### 【現況】

- 1 水産系学科の志願者数は年々減少
- 2 全県的に職業系専門学科において定員未充足の傾向  
参考 県全体の平均倍率…1.12倍（令和5年度入試）

### (4) 各高校のカリキュラム

#### ① 銚子商業高校 海洋科

- 1 年時に水産の基礎を学ぶ（水産海洋基礎、海洋情報技術）
- 2 年から下記の2コースに分かれて専門的に学ぶ

#### ○海洋環境コース

資源管理型漁業を理解し推進できる知識技能を習得し、未来の海を守ることができる人材を育成

#### ○食品総合コース

水産物を主とした食品加工・利用、食品の流通や情報処理について学ぶと同時に、自らの「食」について考える習慣や「食」に関する様々な知識・技能を習得

## ② 大原高校

1年時に共通でキャリア教育…自分の適性や進路目標について考える。

2年時より4つの系列に分かれる。

○普通系列

○生活福祉系列

○園芸系列

### ○海洋科学系列

水産業や海洋系列の産業に従事するために必要な知識、技能及び態度を習得

主な実習:アワビ・ヒラメ種苗生産、航海・潜水実習、

ダイビング実習、小型船舶実習

## ③ 館山総合高校 海洋科

1年時に水産の基礎を学ぶ（水産海洋基礎、小型船舶）

2年から下記の4コースに分かれて専門的に学ぶ

### ○海洋工学コース

機械工学を学び、船舶や関連産業に従事する人材を育成

海技士(機関)を養成

### ○海洋生産コース

海・船・魚を広く学び、漁業や船舶に関わる産業に従事する人材を育成

海技士(航海)を養成

### ○栽培環境コース

つくり育てる漁業を中心に、海洋生物や海洋環境を学び、水産資源を管理し活用できる人材を育成

### ○食品コース

水産物を中心とした食品加工・生産・安全管理、流通までを学び、水産加工、流通業に従事する人材を育成

## (5) 水産系高校卒業後の進路状況

	令和2年度 (R3.3月卒業)					令和3年度 (R4.3月卒業)					令和4年度 (R5.3月卒業)				
	卒業 者数	海洋関係進路				卒業 者数	海洋関係進路				卒業 者数	海洋関係進路			
		進学	就職	うち 漁業	合計		進学	就職	うち 漁業	合計		進学	就職	うち 漁業	合計
3校の合計人数 (比率)	<b>116</b>	10	26	<b>10</b>	36	<b>67</b>	6	11	<b>2</b>	17	<b>76</b>	7	13	<b>4</b>	20
		9%	22%	<b>9%</b>	31%		9%	16%	<b>3%</b>	25%		9%	17%	<b>5%</b>	26%

### 【現況】

- 1 **海洋系進路**は進学・就職含めて全体の**約3割**  
 海洋系進学：水産高校専攻科、国立海上技術短期大学校 等  
 海洋系就職：船舶・造船関係、海運業、公務員、海上自衛隊 等
- 2 高校卒業後すぐに**漁業に就業**する割合は**1割未満**  
 漁業就業：各漁業協同組合、漁船運航会社 等

## (6) 本県の水産教育の課題

### ① 入学志願者の減少

- ・ 中学校卒業生数は今後も減少傾向
- ・ 水産系高校は定員未充足、**志願者は減少傾向**

### ② 卒業後の進路

- ・ **海洋関係**の進路選択者は**約3割**
- ・ 卒業後すぐに**漁業に就業**する割合は**1割未満**  
 →学校の学びと卒業後の進路の関係が見えづらくなっている

### ③ 遠隔地からの生徒受入について

- ・ 寮設備を含め、他県の状況を研究し、課題等を整理しつつ、引き続き地元と協議しながら検討

## 5 検討会議での主な意見・提言

### 【新たな対策に関する主な意見・提言】

#### (1) 小型船漁業の就業者対策の強化

- ①都市部等からの漁業を何も知らない漁業就業希望者が小型船漁業で独立できるまでワンストップで支援する対策等が必要である。
- ②一人乗りの小型船漁業の後継ぎを育てる講師専門の漁師を設けるなどの仕組みを作らないといけない。漁協も考えるので、それを行政が支援、サポートする仕組み作りが必要である。漁協は人材不足で、ノウハウもないので県等でサポートする体制を作してほしい。
- ③小型船漁業の担い手の確保・育成は、地域漁業や漁村を維持していく上で重要な課題である。小型船漁業の担い手が減ることで、困るのは漁協のほか、仲買、流通、造船などの地域水産関係者である。
- ④各浜で漁師の高齢化という課題がある一方で、小型船漁業の場合はライバルが少ない方がよいとの意見もあると聞いている。漁業の担い手であるのと同時に地域の担い手であるという地域の理解がないと定着はしない。地域で普段から話し合うことが大事である。受入れ側のセミナーも必要である。
- ⑤小型船漁業の場合、船主との相性の問題で辞めてしまう例を全国各地で聞く。漁業就業希望者を漁業者グループ等で受け入れるような仕組みが構築できるとよい。
- ⑥漁協で働きながら漁師を目指す仕組みも良い。非漁家出身者による担い手の確保、育成及び定着において、地域おこし協力隊のような仕組みは有効である。この制度の対象外となるケースを補うような県独自の施策があるとよい。
- ⑦まき網や定置網漁業は、会社への就職みたいで入りやすく、乗組員が集まるが、家族経営の小型船漁業は新規就業者が集まらない。
- ⑧大型船漁業は社会保険などの福利厚生が充実しているのに対し、小型船漁業の多くは国民健康保険のみと聞く。小型船漁業の福利厚生の充実の

ための支援も必要である。

⑨女性を受け入れることも検討する必要がある。

⑩漁家子弟も非漁家出身者も独立までのハードルは同じ。漁家子弟は一番のターゲットであり、ここを伸ばしていくことが重要である。漁家子弟も漁業技術研修の対象に加えるなどサポートの強化が必要である。

⑪漁家子弟を含めもうかる漁業でないと担い手が集まらない。最新の漁労機器やスマート水産機器の導入などによるもうかる漁業への転換支援が必要である。

### 提言①

○非漁家出身の漁業就業希望者が相談から独立するまでの伴走型の支援が必要なため、ワンストップで対応する組織の設置・運営等の検討が必要。【①・②】

○漁業就業希望者が定着するには、新たな人材を迎え入れる地域の理解が必要なため、受入計画の作成や事業実施を担う市町や漁協を中心とした地域の受入れ体制の検討が必要。【③・④】

○漁業技術や知識、漁船・漁具を持たない非漁家出身者が就業・独立することは難しいため、非漁家出身者が生活資金を得ながら技術や知識を習得する支援策の検討が必要。【⑤～⑨】

○漁家子弟の就業を増やすため、漁業技術研修の対象に漁家子弟も含めるなどの支援策や最新のスマート水産機器の導入などによるもうかる漁業への転換などの支援策の検討が必要。【⑩・⑪】

## (2) 大型船漁業の就業者対策の強化

①大型船の海技士が不足している。特に機関士が足りないので、海技士の確保対策が必要である。さらに、就業後、船主の持ち出しで資格取得のための研修会に参加させており、負担も大きいので県で支援を検討してもらいたい。

### 提言②

○大型船漁業の就業者が海技士免許を取得する際の負担を軽減するため、研修の受講に必要な旅費等に対する支援策の検討が必要。【①】

## 【これまでの対策に関する主な意見・提言】

### （１）漁業のPR／就業相談

- ①全国的には潜在的な漁業就業希望者がいる。千葉県漁業に就業したいと思ってもらえるよう千葉の漁業の魅力を若者向けにネット発信するなどPRを強化してはどうか。
- ②就業支援パンフレットへの各地域が誇る水産物の掲載や、漁業種類ごとに動画を作成して、漁業の魅力をPRしてはどうか。
- ③TikTok など今の若者の情報入手方法に合わせた情報発信が必要である。

#### 提言③

○全国の漁業就業希望者に千葉県漁業の魅力が伝わっていないため、漁業種類ごとに作成した動画のネット配信等の検討が必要。【①～③】

### （２）漁業体験

- ①短期研修について、働きながら転職を考えている人が身軽に参加できるよう工夫してはどうか。
- ②周年を通じて、いつでも漁業体験を受けられるように工夫してはどうか。

#### 提言④

○体験希望者の都合に合わせた受入れが就業につながるため、柔軟に受け入れられる体制やメニュー等の検討が必要。【①・②】

### （３）漁業技術研修

- ①研修を実施する漁協や漁業種類が限られている。ノウハウの共有や漁業種類ごとの研修の充実を図る必要がある。それに併せて予算の拡充も必要になる。
- ②中期や長期研修の受入れ人数が少ないので、事業規模を拡大することが必要である。
- ③一人前の漁業者を育成するには研修期間が短い。3～5年間位で育成するような施策が必要である。

- ④中・長期研修について、船主からの給料では研修生の生活が厳しいので、研修生に対する直接支援策があるとよい。
- ⑤中・長期研修について、研修生に対する住居支援があるとよい。

#### 提言⑤

- 研修できる漁業種類や人数が限られているため、受入れ体制や予算の拡充等の検討が必要。【①・②】
- 一人前の漁業者を育成するには研修期間が短いため、研修期間の延長等の検討が必要。【③】
- 船主からの給料では研修生の生活を維持することが困難なため、住宅費の補助などの支援策の検討が必要。【④・⑤】

### (4) 就業・定着

- ①漁業技術を習得して独立するには3～5年の期間や漁船等の取得も必要なため、その間の生活費等を含めて支援する仕組みづくりが必要である。
- ②新規就業者に対する住居支援があるとよい。
- ③市町の移住定住の施策と連携した支援策や農業部門と連携した半漁半農のスタイルの支援策も必要ではないか。

#### 提言⑥

- 漁業技術を習得して自立するには多額の初期費用と長期間を要するため、漁船・漁具の導入や市町と連携した住居などの生活支援の検討が必要。【①～③】

## 【水産系高校に関する主な意見・提言】

- ①漁業者が水産系高校の卒業生は即戦力になると思えるよう、釣り、刺し網漁業やスマート水産技術の活用などの実践を見据えた実習に切り替えていくことが必要である。
- ②少子化で水産系高校の生徒が少数となっても仕方ないが、漁業などの水産関係への就職等につながるようなカリキュラムが必要。近年の漁業法改正、海業、磯焼け、SDGsなどの課題と関連付けて学べるカリキュラムを導入してはどうか。
- ③漁業などの水産業が抱える問題等と絡めて、環境や海業などのカリキュラムを組み、広く専門的な知識や技術を学べるようにするのは、水産系高校の魅力につながるのではないか。
- ④卒業後の進路として、大原高校であれば小型船漁業、鮎子商業であれば水産加工業というように各高校に特色を持たせてはどうか。
- ⑤全国の水産系高校の卒業生のうち、漁業者になるのは100人位。入学生も激減しており、46校中40校が定員割れと聞く。小・中学生のうちから漁業の魅力を伝えることで、水産系高校の入学希望者も増えるのではないか。地域の中で漁業などの水産業に触れる機会を作っていくことも必要である。
- ⑥他県の水産系高校の一部では、漁業や水産加工会社への就職、水産系大学に進学する生徒が約8割を占めるなど地元と密に連携しながら学校運営をしていると聞いている。水産系高校の場合は、地元連携が必要である。
- ⑦高校受験生の保護者に対し、複数の漁業種類の組合せや漁業と海業との組合せなどの漁業をベースとした生計・生活イメージを示すことも必要である。
- ⑧水産系高校の卒業生に期待しており、各地からの生徒が受け入れられるよう寮を整備してはどうか。

### 提言⑦

- 漁業者は即戦力人材を求めているため、釣り、刺し網漁業やスマート水産技術の活用などの実践実習の強化や近年注目されている海業や環境対策などに関連した授業の導入の検討が必要。【①～④】
- 入学生を増やすため、小・中学生を対象とした漁業の魅力アピールや卒業後の漁業就業イメージを示すなどの取組の検討が必要。【⑤～⑦】
- 各地からの生徒を受け入れるため、寮の整備などによる体制づくりの検討が必要。【⑧】